

【編集・発行】

富山市まちなか総合ケアセンター 医療介護連携室  
〒930-0083 富山市総曲輪四丁目4番8号  
TEL 076-461-3618 FAX 076-461-3604  
URL <https://machinaka-care.city.toyama.lg.jp>



# 富山市医療介護連携情報

Vol. 6



## みんなで支える“いのち”と“暮らし”

富山市では、医療や介護が必要になっても可能な限り住み慣れた地域で、安心して自分らしく暮らすことができるよう、医療や介護等を一体的に提供できる体制の構築に取り組んでいます。

まちなか総合ケアセンターは、地域の医療・介護関係者などの連携を推進することを目的に研修会を開催しています。

### 医療介護連携研修会の開催



# これからの在宅医療

みんなの二口町内科クリニック  
黒田 健 先生



# オーラルフレイルとその予防

片岡歯科医院  
片岡 弘一 先生



# 在宅療養者の災害対策

百塚地域包括支援センター  
梅田 智則 さん

## 第1回 12月7日(水) 会場参加 6名 オンライン参加 28名



### 講義「富山市の災害対策について」

講師：富山市防災危機管理課

網谷 佳起 氏



### 講義「在宅療養者の災害対策について」

講師：百塚地域包括支援センター 防災士 梅田 智則 氏

#### 参加者の声

- 日頃から防災に対する意識を持ってはいたものの、積極的に考えていなかったため見直す機会になった。
- 「普段していないことは、その場になってもできない」という教訓が一番心に響いた。
- 富山市洪水ハザードマップを活用し、まずは自宅、勤務先周辺の避難場所等をしっかり確認しておきたい。
- 利用者さんやご家族さんに具体的に避難方法等防災に対する意識を持ってもらうように働きかけていきたい。

## 第2回 1月12日(木) 会場参加 14名

### 机上訓練「日頃の防災対策について」

コーディネーター：百塚地域包括支援センター 防災士 梅田 智則 氏

オブザーバー：富山市防災危機管理課 網谷 佳起 氏



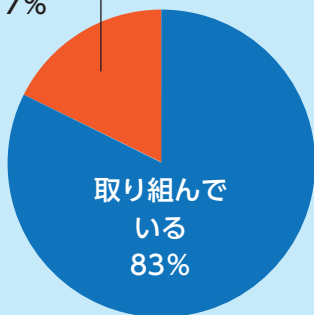
#### 参加者の声

- 机上訓練をすることで普段気づかないことに気づくことがある。「訓練」することの大切さを感じ、事業所で実施してみたい。
- 代替案を常に考え、対応・対策を事業所内で話し、共有していく大切さを学んだ。
- 事業所内だけではなく、法人全体で検討するべきだということがわかり、大変良かった。

医療・介護資源把握調査<sup>※</sup>にて、災害発生時の備えとして取り組んでいることをお聞きしました。

#### 災害時の取り組み

取り組んでいない  
17%



利用者に対する備え	緊急時連絡先の確認・リスト等の作成	70%
	居住地域の避難場所・手段の確認	52%
	避難時の持ち出し品の確認・準備	37%
	富山市避難行動要支援者支援制度の登録	7%
	その他	5%
事業所としての備え	職員の緊急連絡体制の整備	81%
	事業所のある地域の避難場所の把握	67%
	防災ハザードマップの把握	61%
	避難訓練の実施	61%
	備蓄の確保	54%
	B C P (業務継続計画) の作成	48%
	他事業所との連携	25%
その他	1%	

※) 医療・介護資源把握調査：市内の医療と介護の資源(医療機関や介護サービス事業所、訪問看護ステーション、薬局など)にアンケート調査し、情報をホームページで公開しています。

「富山市くらしを支える医療と介護の情報」 URL <https://machinaka-care.city.toyama.lg.jp/mnr/top/asp>



## 第1回 8月3日(水) オンライン参加 96名

### テーマ「これからの在宅医療～家だからできること・施設だからできること～」

講師：みんなの二〇町内科クリニック 院長 黒田 健 氏  
コーディネーター：まちなか診療所 医師 三浦 太郎 氏

#### 在宅医療は選択肢の一つ



増え続ける高齢者および看取り患者さんに対して、病院ではなく自宅や施設で過ごせるという選択肢を提示し選べる社会を多職種・多事業所で連携しながら作っていく重要性を語っておられました。

施設での診察が多いクリニックの特徴もあり、施設と自宅での訪問診療の違いを話されていたのが印象的でした。

医師も複数体制で、スタッフも多業種であり、情報共有をするシステムについてもお話されていました。

#### 参加者の声

- 業種の違いで考えの違いがあって当たり前。それをどのように話し合い進めていくかが大切と感じた。
- “納得して逝く”という言葉にとっても共感した。「幸せ」の半径を広げたいというミッションとともに在宅医療のインフラになるというビジョンには、黒田先生の覚悟を感じた。
- 最終段階の意思決定支援で、医療者の思う予測される状況と本人・家族がとらえている状況とのすり合わせに苦心することが多々ある。一度決めたことは何度でも変えて良い、と先生の講義にもあったが、揺れ動く気持ちに寄り添うことのできる医療者でいたいと思った。

## 第2回 9月7日(水) オンライン参加 35名

### テーマ「オーラルフレイルとその予防」

講師：片岡歯科医院 院長 片岡 弘一 氏  
コーディネーター：まちなか診療所 医師 三浦 太郎 氏

#### 人との交流でオーラルフレイル予防

訪問歯科診療の概要および依頼の仕方（かかりつけがない場合は、歯科医師会に問い合わせると紹介してくれる）について語られていました。

また虫歯について、噛むことについて、通説を事実に基づいてユーモアを交えながら解説をしていただきました。

具体的な道具を使った訓練も大切ではあるが、日常的にしゃべることで咬筋を鍛えられるという重要性を再認識させていただきました。



#### 参加者の声

- 口腔ケアの大切さを改めて実感した。ケアプランに反映していきたい。
- オーラルフレイル予防には口腔内のケアをするとともに、社会参加や人と話したりすることが重要ということがよくわかった。
- 利用者を訪問していると、口腔機能の状態と介護予防は密接な関係にあると日々実感している。講義を聞いて、訪問診療の依頼方法や口腔ケア、口腔機能検査、利用者向けリーフレットの紹介もあり業務に役立つ学びができた。
- かかりつけ歯科の必要性がよく理解できた。オーラルフレイル予防には歯の健康だけでなく、楽しく活動でき、人と会話するなど重要で、それが健康を維持していくことにつながっていくと感じた。



# 机上訓練ワークシート

医療介護連携研修会（在宅療養支援モデル事業）では、ワークシートを用いて災害発生時どのような対応をするのか机上訓練を行いました。研修会で使用したワークシートの一部を掲載します。災害に備える平時からの情報整理に、事業所やご家庭での机上訓練にご活用ください。

シチュエーション『大規模地震発生！』	
●震度6	●その他（詳細に設定）
●震源地：富山市	〔 〕
●天候・気温：今日のこの状況と同程度	

## 震度6

- ・はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- ・固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。
- ・耐震性の低い木造建築は、傾くものや倒れるものが多くなる。
- ・大きな地割れが生じたり、大規模な地滑りや山体の崩壊が発生することがある。

（気象庁 震度と揺れなどの状況（概要）より抜粋）

## 《机上訓練ワークシート 記入例》

■あなたのいる場所：自宅（場所： ） 施設・事業所（場所： 事務室 ）

行動(フェーズ)	どのような対策をとった(どのような危険があったか)	誰がどのように実施するのか	より良い対策(もっとうまくやれること)	その対策の実施のためには(いつまでに・誰が・どうする)
身の安全の確保	揺れがおさまるまで机の下で待機（落下物から身を守るため）	周りにいる職員にも声をかけた	机の後ろにキャビネットがあり倒れてこないか心配	キャビネットと机の位置関係の見直し、固定

■どのような機関と連携が必要となりますか？その機関とはどのように連携を取りたいですか？

機関名	どのように連携を取りたいか
担当利用者が利用中のデイサービス	電話でできるだけ早く安否の確認、家族との連絡、当面の対応内容を確認したい

ワークシートは、A5サイズからA4サイズに拡大(141%)コピーしてご使用ください。

## 《机上訓練ワークシート》

### あなたは・あなたの事業所は、どのように対応しますか？

■あなたのいる場所：自宅（場所： ） 施設・事業所（場所： ）

行動(フェーズ)	どのような対策をとった(どのような危険があったか)	誰がどのように実施するのか	より良い対策(もっとうまくやれること)	その対策の実施のためには(いつまでに・誰が・どうする)

■どのような機関と連携が必要となりますか？その機関とはどのように連携を取りたいですか？

機関名	どのように連携を取りたいか